九州支部

□第30回
日本肺癌学会九州支部会

平成2年8月1日（水）
2日（木）

オリアナ号
当番幹事 原 信之
（九州がんセンター）

1. 佐賀県の肺癌検診の現状について
佐賀県成人病検診協議会肺癌部会
古川次男，吉田猛朗

佐賀県では昭和63年度より肺癌検診が実施され，受診者の総数は昭和63年度が32,719人，平成元年度が48,540人で，発見された肺癌が昭和63年度22例，平成元年度20例の計42例で，人口10万人に対する発見率はそれぞれ67人，41人であった。発見肺癌のうちI期が20例（57％）で，早期肺癌は5例（12％）であった。

2. 間接フィルムを用いた肺癌集団検診について
熊本県成人病予防検診協議会集団検診班
松本武敏，福田浩一郎
木村孝文，田中不二穂
岳中一夫，松尾清
野村悦生，渡辺純子

1988年度にX線検診を受診した11,323例のうち，臨床期Ⅰ・Ⅱ期で発見された7例や，比較的E判定180例について精度管理を行った。

3. 鹿児島県における老人保健法による肺癌検診の実施状況について
鹿児島県民総合保健センター
川越整行，桃谷 燧

植田さよ子，山本聖子
神崎章子，甲斐ゆき子
平泉美枝，尾崎義雄
鹿児島県保健所 高野義彦
脇元邦夫

昭和62年より肺癌検診を実施した結果，3年間で20例，10万対45という結果で肺癌患者が発見された。

4. 肺癌検診により発見された肺癌について
鹿児島大放射線科
田口正人

伊東政則，岡田昭文
鹿児島県民総合保健センター
川越整行，尾崎義雄

鹿児島県保健所 高野義彦
昭和62年より実施された鹿児島県肺癌検診にて発見された肺癌は20例で，発見方法は間接検査17例，肺癌発見2例，両者1例であり，発症部位は肺門部2例，肺野部14例，癌期が1期4例，Ⅱ期2例，Ⅲ期9例，Ⅳ期1例であった。

5. 喫煙歴を指標とした肺癌症例の検討
大分県立病院胸部血管外科
内山英貴，山崎義夫，吉田義美

柴田健二，本多義，清

喫煙年数を指標とし，5878例のうち肺癌は5例であった。全例男性で，喫煙歴は1000年以上であった。発症部位は左上区，右B1，B3，B4，B5にあり，全例術前診断は可能で，手術を施行し，病理組織学的的には気管支支脈門の扁平上皮癌の早期肺癌であった。

6. 肺癌検診で発見されたRadiologically occult lung cancerの3症例
佐賀県立病院整形外科
石田博，古川次夫，米村宣弘

吉田猛朗
同 内科
小柳孝太郎
同 病理
宮崎祐司

肺癌検診の喫煙細胞診を契機に発見され，2例は肺門部早期肺癌，1例は肺野型早期肺癌だった。検診における喫煙細胞診の2例は判定“C”で，当院では“E”（陽性）であり，検診における3日間届けのサコマノ法に考慮すべき点がある。

7. 肺癌の縱隔リンパ節転移のCT-腫大形態とその意義
産業医大放射線科
小野村健太郎，中田 優

同 第2外科
白日高歩

肺癌のリンパ節転移の腫大形態に着目し，子後の関係を中心に検討した。CTにてリンパ節腫大を認めないか，認めても融合傾向や周囲気管支への浸潤のみられないものは，比較的子後良好な傾向であり，根治手術適応になり易いと考えられた。

8. CDDP吸入療法の実験的検討
長崎大第2内科
木下明敏
早田 宏，広瀬清，谷口哲夫

岡崎幸男，原 耕平

CDDP吸入療法について実験的検討を行った。マウスにCDDPのミストを吸入させ，血液，尿，唾液中のCDDP濃度を測定した。また肺組織や腫瘍組織を用い，気道遮断移流モデルを用い，CDDP吸入療法の効果を検討し，CDDP吸入群とコントロール群の間で差がみられた。

9. カルシウム拮抗剤の併用を試みたCDDP+VP-16に治療抵抗性の肺扁平上皮癌の2例および初回治療肺扁平上皮癌の1例
北九州市立松寿院
斎藤藤彦
吉田知司，松村健一，塩井芳寿

九州大胸部疾患研究
重松信昭